

使徒パウロが聖霊によってピリピ教会に宛てて書いています。
今日は17節と18節の2つを学びます。
彼は与えることについて、大変率直に話しています。

ピリピ 4:17-18

17 私は贈り物を求めているのではありません。
私が求めているのは、あなたがたの霊的な口座に加えられていく実なのです。
18 私はすべてのものを受けて、満ちあふれています。
エパフロディトからあなたがたの贈り物を受け取って、満ち足りています。
それは芳ばしい香りであって、神が喜んで受けてくださるささげ物です。

私たちの理解を深めて下さるように、祝福と一緒に祈りましょう。
愛する天のお父様、御言葉に、そして今日、ここで共に御言葉を学べることを心から感謝します。
主よ、私たちは信仰の創始者であり、完成者であるあなたを見つめています。
どうか、今日のみことばを通して、私たちのいのちに語って下さい。
主よ、私たちが心開き、耳を開いて聞くことができるようにと願います。
たとえ気まずく感じようとも、心を開くことができますように。
主よ、どうか、聖霊が非難ではなく、確信を下さいますように。
確信と勧告をお願いします。
必要ならば戒めて下さい。
主よ、お語り下さい。しもべは聞いております。
イエスの御名によって。アーメン。

今日の説教は、先週の『与える者が大きな祝福を得る理由』のパート2です。
言っておきますと、章から章へ、節から節へと、御言葉を通して解説しながら学ぶ時、お金について話すのは、今回のように御言葉にそれが語られている時だけです。
正直に言えば、このことは私へのプレッシャーを取り除いてくれます。
教会を始めたばかりの頃、マタイ書を教えていて、イエスがお金のことを話した箇所に来た時、私がずっと教会に招いていた男性がやって来ました。
私がお金について話しているまさにその日、彼はやって来たのです。
「主よ、冗談でしょう！ これって、どうなんですか!？」
なぜなら、お金のことは彼のこだわりだったから。
私は「教会を始めたばかりなので、是非一度いらして下さい。」と誘っていたのですが、「教会って、全部同じさ。どんな牧師も話すのは金のことだ!!」(ガックリ…)
これで、神にはユーモアがあることを確信しました。
毎日鏡で自分を見るたびに、それを思い出します。

しかし神は、あの日の特別なメッセージさえ、彼への伝道に用いて下さいました。
多分今日、私たちにもそうされるのでしょうか。
この説教のテーマを『与える者が大きな祝福を得る理由』にしたのは、パウロがここで話しているのが「与える事は受け取る事より祝福される」という内容だからです。

パウロはここで、ローマの獄中にある自分が、ピリピ教会からの惜しみない贈り物と祝福を受け取ったこと、彼らが牢獄にいる自分を祝福してくれていることを語っています。

私は先週主に願い求めた時、この2つの節だけを進めるように感じました。

ここに、与える（献げる）事に関して、力強い真理が込められているからです。

今日私たちが見ていくのは、2つの真理です。

神の民としての私たちが与える時どうなって、神がどう応えて下さるか。

もっと重要なのは、「なぜ神は与える者をそんなに喜び、そんなに祝福するのか」ということです。

なぜ神は与える者をそんなに喜び、そんなに祝福するのか ①

ピリピ 4:17

私は贈り物を求めているのではありません。

私が求めているのは、あなたがたの霊的な口座に加えられていく実なのです。

『与える（献げる）者は報われる』

確かなことは、私たちは何かを得るために与えるのではないということ。

しかし神の経済ではそのように作用するのであって、パウロはそれを言っているのです。

これは恐らく唯一でなくとも、神が与える人を祝福し、報われることの最も重要な理由の1つだと思います。

私たちが与える時は本当に、天にある私たちの口座に預金しているのです。

あなたは、天に口座を持っていることを知っていましたか。

「そうなの?」「大変だ。きっと残高不足だよ。」「引き出し超過だ。」

認識するかどうかに拘わらず、私たちは皆、天に口座を持っています。

天に宝を持っているのです。

そうしてまた、私たちは皆、それに比例して地上の報酬を持っています。

ルカ 6:38

与えなさい。そうすれば、あなたがたも与えられます。

詰め込んだり、揺すって入れたり、盛り上げたりして、気前よく量って懐に入れてもらえます。

あなたがたが量るその秤で、あなたがたも量り返してもらえるからです。

Ⅱコリント 9:6

私が伝えたいことは、こうです。

わずかだけ蒔く者はわずかだけ刈り入れ、豊かに蒔く者は、豊かに刈り入れます。

箴言 3:9-10

9 あなたの財産で主をあがめよ。あなたのすべての収穫の初物で。

その理由は

10 そうすれば、あなたの倉は豊かさに満たされ、あなたの石がめは新しいぶどう酒であふれる。

この裏にある意味は、裏返してみると

あなたの財産と全ての収穫の初物で主をあがめれば、あなたの倉は豊かに満たされる。

逆にそうしなければ…あなたの倉が空っぽ状態なのは、恐らくそれが原因でしょう。

これについては後ほどゆっくり話します。

箴言 11:24

気前よく施して、なお富む人があり、正当な支払いを惜しんで、かえって乏しくなる者がある。

マタイ 6:2-4

これが興味深いのは、イエスが教えの中で与えるという事に人々の注意を引いていることです。

2a ですから、施しをするとき、偽善者たちが人にほめてもらおうと会堂や通りでするように、自分の前でラッパを吹いてはいけません。

彼らは人々に、自分がいくら献金するかを見せたいのです。「彼らを見てよ！ すごい！」

これに関して、先週考えた事を補足します。

言いたかった事を言わなかった時、もう1度その時に戻りたいと思ったことがどれくらいありますか。

私は毎週日曜日に、毎回のメッセージでそうなります。

主よ、思い出させて下さってありがとうございます。

私は、皆さんがいくら献金しているのかを知らない、という事を知って下さい。

おや、皆さん、ホッとした顔をするのかと思っていました。

多分、私が想像する理由ではなかったんですね。

私はこの教会に献げています。

とりわけこの教会が好きでして、十一献金をしています。

皆さんも同じように献げて下さっていると分かっています。

でも、いくら献げているのかは知りません。

なぜかという、皆さんを違う目で見たくないから。

これはどちらかという、私と私の肉の問題なのですが。

なぜならパウロが書いているように、私の中に、私の肉の中に、何ひとつ良いものはないからです。

私は自分という者を分かっています。

もしあなたが大金を献げたということを知ったなら、日曜の朝、あなたが教会の正面扉から入って来るのを見た時、「おお！ 兄弟！ よくいらっしやいました！ 何かいりませんか？ コーヒーはいかが？」

「どこに座りたいですか？」

正直に、正直すぎますが。

これは、反対も言えるでしょう。

もし私が知っていたら、これをどう言えばいいか…牧師としてトライしているのですが。

“Cheep”（安い・少ない）という言葉を使いたいけど、それを聖化して…主よ、申し訳ありません。

そう、質素、節約。

そしてあなたが教会に来た時、「あーあ……」

私は皆さんにただ正直になっているだけです。

だから知りたくないのです。

これが会堂で起こったことで、イエスが指摘していることなのです。

彼らは人々からほめてもらうこと、特別扱いされることが好きでした。

彼らがいくら献金したかを見世物にしていたことから、それは絶対に明白です。

当然イエスは、**マタイ 6:2b**

まことに、あなたがたに言います。彼らはすでに自分の報いを受けているのです。

「私はこんな大金を献げたんだぜ！」「私を見て！ 大物のしるしに、私の写真を撮ろう。“与える者”だ！」と誰かが自慢する時、それが唯一の報酬になるから、せいぜい楽しめばいい。

マタイ 6:3-4

3 あなたがたが施しをするときは、右の手がしていることを左の手に知られないようにしなさい。

これは慣用句です。

4 あなたの施しが、隠れたところにあるようにするためです。

そうすれば、隠れたところで見られるあなたの父が、あなたに報いてくださいます。

私はそういう報酬が欲しい。それが永遠の報酬です。

それが、私の宝を天に積むことです。

このように言うことを許してほしいのですが、天に宝を積むという事に私は貪欲です。聖別という形で。

なぜなら、私は何も持って行けないから、前もって送りたいのです。

そうすれば、天の私の口座に貯金されて、私を待ち受けているのですから。

今日こう言うのは適切だと思いますが、私が前もって送る宝は、明日の国税に持って行かれることはない。

「困ったな…」と考えている人もいると思います。

明日4月15日は納税日ですから、皆さんの頭の中にはそれしかないでしょう。

残念ですが。

私が将来へ送る時、**マタイ 6:20**

自分のために、天に宝を蓄えなさい。

そこでは虫やさびで傷物になることはなく、盗人が壁に穴を開けて盗むこともありません。

天は安全です。ここはそうではない。

地上にあるものは全て脆いから。

私がクリスチャンとして考え、時に自分の傾向や自身のことを話すのは、「私たちの罪の性質は、この地上に深く根を下ろしたいと願う」ということに関してです。

だから、自分の宝を天ではなく、この地上に積み上げる。

でもその結果、私たちが逃してしまうのは、主に献げていれば、天で私たちが待ち受けていたはずの全ての宝なのです。

なぜ神は与える者をそんなに喜び、そんなに祝福するのか ②

これは大きなことなので、少し時間をかけたいと思います。

ピリピ 4:18

私はすべてのものを受けて、満ちあふれています。

エパフロディトからあなたがたの贈り物を受け取って、満ち足りています。

それは芳ばしい香りであって、神が喜んで受けてくださるささげ物です。

『与える者は神に喜ばれる』

与えるなら神は喜ばれる。今までそのように考えたことがありますか。

裏返すと、与えないなら神は喜ばれない。

4つの福音書を通して、イエスが「目に留める」と言われている箇所には、いくつかのたとえがあります。

イエスが喜ばれる箇所、言わばイエスが感銘し祝福される箇所です。

それらのたとえには、誰かが信仰を持っている時、誰かが与える時、誰かが祈る時が含まれています。

これらは、イエスが特に目を留める事柄です。

先週、神殿でのやもめの話をしましたね。

そこでは全ての宗教指導者、偽善者、パリサイ人が献げていました。

見せびらかしながら、これ見よがしに。

そこへ、全財産が2レプタ銅貨だけの（今の基準で1セントの価値もないと言われている）貧しいやもめがやって来て、それを全部献げます。

イエスは弟子たちを呼び集めるほどにそれに目を留めて、「彼女がしたことを見ましたか。」

教えるべき、まさにその時だったから。
私たちが与える時、神は目を留め、大変喜ばれるのです。

さて、パウロがここで言っていることは実に興味深い。
その理由はたくさんありますが、1つは私たちのささげ物をこのように描写していることです。

18 それは芳ばしい香りであって、神が喜んで受けてくださるささげ物です。

私たちが与える時、それは神の御前で甘美な香りとなる。
それが喜ばれるキーワードの“犠牲”であり、神が満足されることなのです。

ここで疑問なのは、与えることが、どうして神をそんなに喜ばせるのか。
答えはひと言。犠牲。

I 歴代誌 21 章に興味深い記事があります。

ダビデは人口調査をすることで神に大きな罪を犯したので、神はダビデに3つの選択肢を示されました。
彼は自分の罪のために民に下された疫病を止めるために、主の祭壇を築くために麦打ち場を買って、主にささげ物をします。

そこには類型論の多くのことが示されています。

イエス・キリストは全人類の罪のために、死に至る罪という疫病を止めるために、ささげ物・犠牲となりました。

罪の報酬は死だから。

麦打ち場の所有者エブス人オルナンとダビデとのやり取りを聞いて下さい。

ところで、私たちはこの場所に行くことができますよ。

オルナンの麦打ち場は、現在、神殿の丘として知られている所。

この箇所は、エルサレムの神殿の丘の不動産売買の記録で、これは非常に、ものすごく重要です。

そこはダビデとイスラエルに献げられたのではなく、ダビデが購入し買い上げたのです。

I 歴代誌 21:23-24

23 オルナンはダビデに言った。

「わが主、王よ。どうぞ受け取って、お気に召すようになさってください。

ご覧ください。全焼のささげ物のための牛、薪にできる打穀機、穀物のささげ物のための小麦も差し上げます。すべて差し上げます。」

全て差し上げます。あなた様から一銭も頂きません。

24a ダビデはオルナンに言った。「いや、私はどうしても十分な金額で買いたい。」

いや、支払わなければならない。あなたに全額支払いたい。

この類型論が分かりますか。

24b あなたのものを主に献げるわけにはいかない。

(聞いて下さい。いいですか。) **費用もかけずに全焼のささげ物を献げたくないのだ。」**

問題なのは、多くのクリスチャンは十一献金というより、チップを払う感じだということ。

神にチップと同じ割合で…10%のチップと言いたいところですが、今や場所によっては20%ですよ。

これに気付いていますか。

事実、十一献金とは10%という意味ですよ。

つまり実際に、チップよりも献金の方が低い。

そしてチップを払うように、「はい、どうぞ」みたいに献金箱に2-3ドル放り込む。

私が青年の信者だった時に聞いた面白い話です。

1 ドル紙幣と 100 ドル紙幣が会話している架空の話。

100 ドル紙幣は次から次へと色々な場所に行きます。

「昨夜は映画に行ったんだ。今夜はディナーだよ！素晴らしい。楽しみがいっぱいだ！」

1 ドル紙幣の方は、「キミ、映画に行くの？ ディナーに行くの？」

1 ドル紙幣の僕が行ける場所といえば教会だけだよ。」

この続きは聖霊のお好きなように…

私も含め皆さん全員がよく考えるために、質問を 2 つして締めくくりたいと思います。

1 つ目。

与えない人たち、喜んで献げない人たち、惜しみなく与えない人たち、常には献げない人たち、十一献金ではなくチップを払うように見える人たちへ。

あなたがたの心配事は何ですか。

あなたがたが最も恐れるものは何ですか。

不安は何ですか。

恐らく「なぜ？」と尋ねた方がいいでしょう。

なぜ一貫して、惜しみなく、喜んで献げないのですか。

2 つ目。

これはどちらかといえば、献げる人への修辭的な質問だと思います。

あなたがただ後悔するのは、もっと多くを献げられない時、もっと頻繁に与えられない時ではありませんか。

これまで与えた時に、神の豊かな祝福を受け取って来たゆえに。

“与える賜物” というのがあるのを知っていますか。

神がその賜物を与えた人は、与えることに大きな喜びを感じる。

それが賜物です。

牧師や教師の役割が賜物であるように。

神はある人には伝道師の賜物を与え、ある人には牧師の賜物を与えます。

神は彼らが、預けられたものを正しく管理することをご存知なので、与える賜物を下さるのです。

そして彼ら“通り良き管”をご覧になっています。

神が彼らの忠実さをご覧になる時、彼らは与える賜物を御国と主の働きのために更に用い、そうして神はもっと多くのものを託されるのです。

多く与えられた者は、多くを求められる。

少しだけ与えられた者には、彼らが与えることに忠実でないからですが、更に多くは与えられません。

ラリー・バーケット (1939-2003) は、今は主と共にいます。

彼は Christian Financial Concepts の設立者で、私は彼のファンというより、実際彼の生徒でした。

彼がいつも言っていたのは、「与える賜物がある人は、得る賜物もある。」

この場合は与える賜物ですが、神が与えて下さった賜物の領域で役割を果たすなら、神はその賜物を供給し続けて下さるのです。

なぜなら神は、あなたが御国の働きのために資金提供する管であることをご存知だから。

神はあなたがそれを浪費したり、自分のために使ってしまうことをご存知だから。

これはラリー・バーケットの別の話の引用ですが、良い話なのでご辛抱下さい。

浪費家とケチな人の対比です。

ケチな人は「お金は平べったいから、積み上げて貯め込める！」

浪費家は「違う。お金は丸いから転がすんだ！」

先週話したのは、「神は、喜んで与える者を愛される」ということでした。

パウロの手紙が語っているのは、衝動買いをするように、衝動的に与えるというわけではありません。

ただ実際には、まるで衝動的にお金を使うかのように、衝動的に、その時のはずみで与えたりします。それが起こり得るのです。

私が言っているのは、そんな与え方、献げ方ではありません。

私が言う与え方は、「主よ、あなたは私に非常に多くの祝福を下さっています。

ものすごく多くを託して下さっています。

私はあなたに与えることに於いて、忠実な者と見て頂きたいのです。」

ではここで献金の時間にします。(会衆爆笑)

皆さんが笑っているのは、私たちがそんなことできないのを知っているからですよ。

献金係もいなければ、献金皿や袋もありませんから。

マラキ書を読んで最後にします。

この御言葉が、資金と与えることの領域に関して私の人生を、決して想像しなかった方法で本当に変えたのです。

私の人生と長年の個人事業の資金面の両方で。間違いなくこのミニストリーに於いても。

神が預言者マラキに言っていることは結構厳しいです。

マラキ書 3:8-12

8 人は、神のものを盗むことができるだろうか。

だが、あなたがたはわたしのものを盗んでいる。

しかも、あなたがたは言う。

「どのようにして、私たちはあなたのものを盗んだのでしょうか。」と。

十分の一と奉納物においてだ。

9 あなたがたは、甚だしくのろわれている。

あなたがたは、わたしのものを盗んでいる。

この民のすべてが盗んでいる。

10 十分の一をことごとく、宝物蔵に携えて来て、わたしの家の食物とせよ。

こうしてわたしを試してみよ。

神が「わたしを試しなさい」と言っているのは、全ての御言葉の中でここだけです。

「このことでわたしを試しなさい。」

—万軍の主は言われる—

わたしがあなたがたのために天の窓を開き、

あふれるばかりの祝福を あなたがたに注ぐかどうか。

11 わたしはあなたがたのために、食い荒らすものを叱って、

あなたがたの大地の実りを滅ぼさないようにし、畑のぶどうの木が不作とならないようにする。

これは別の意味で興味深いです。

—万軍の主は言われる—

